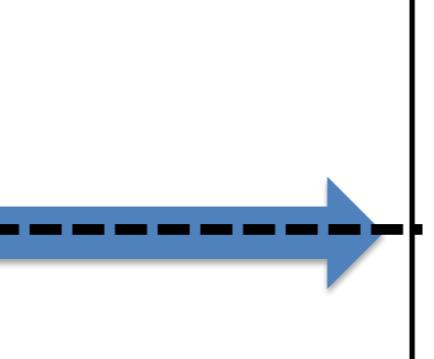
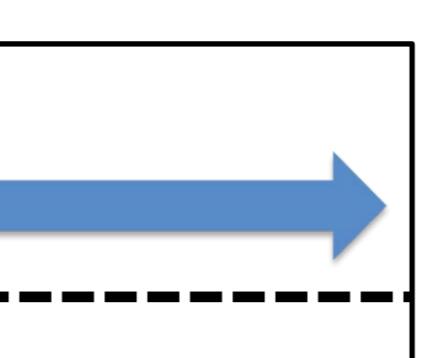
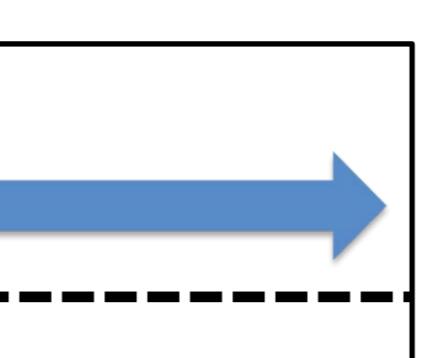
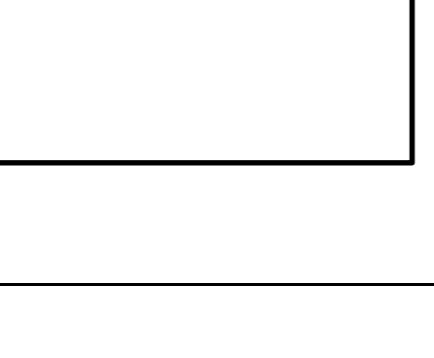
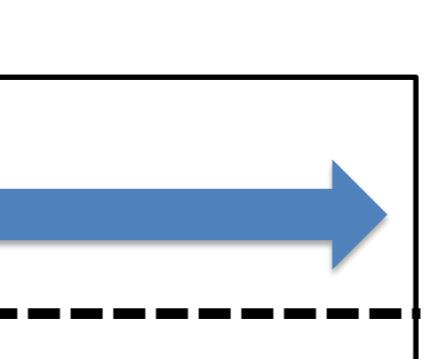
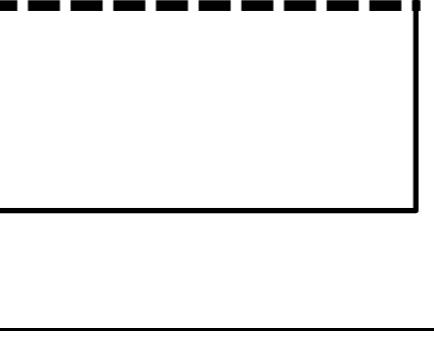
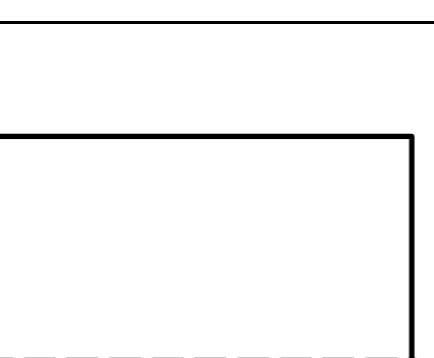
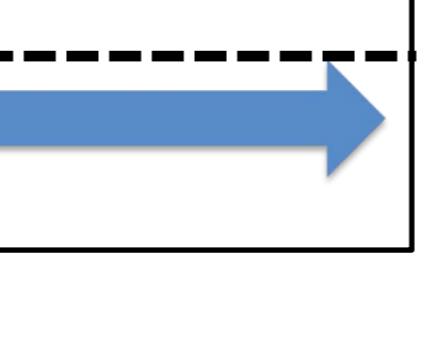
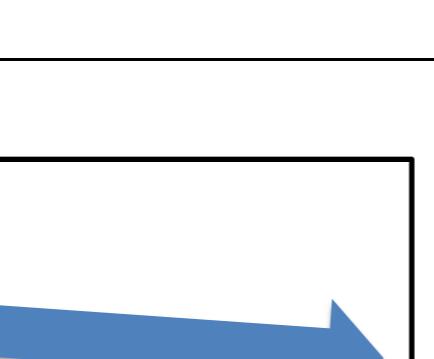
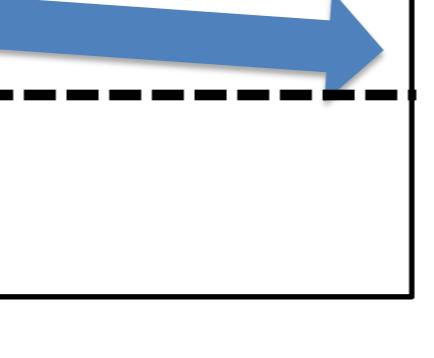
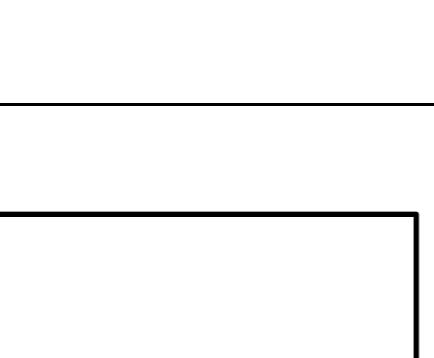
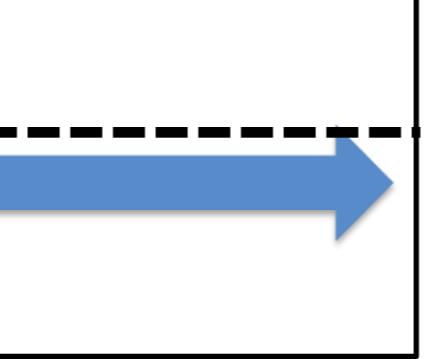
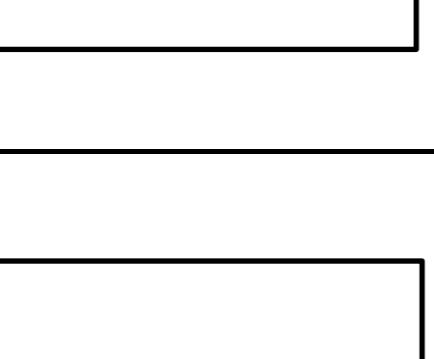
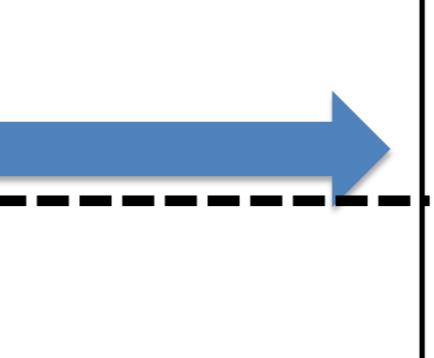
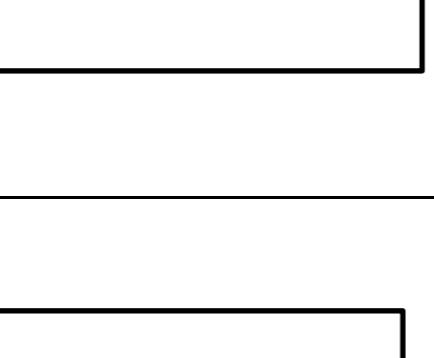
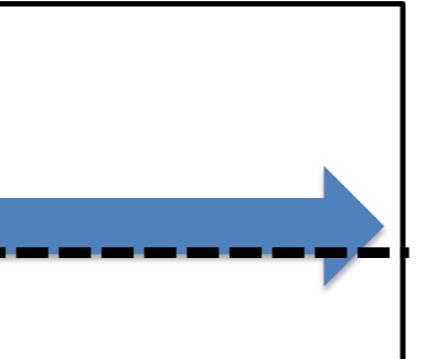
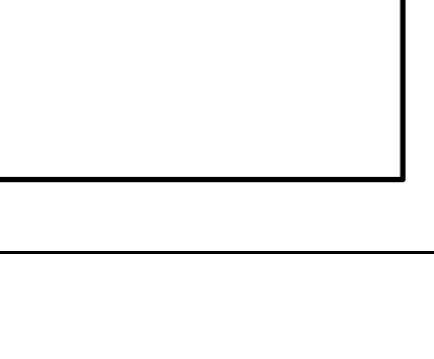
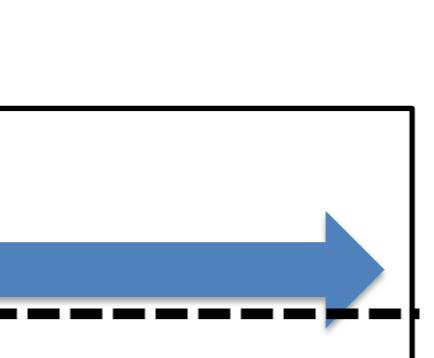
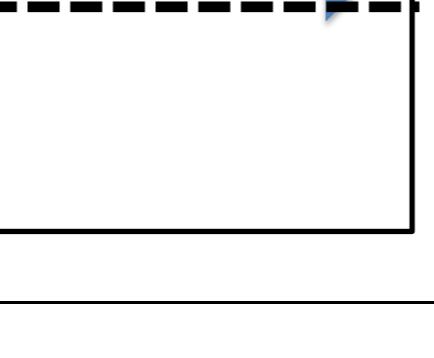
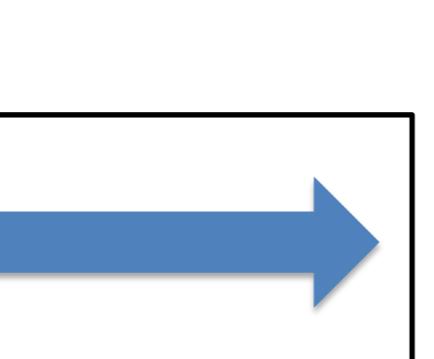
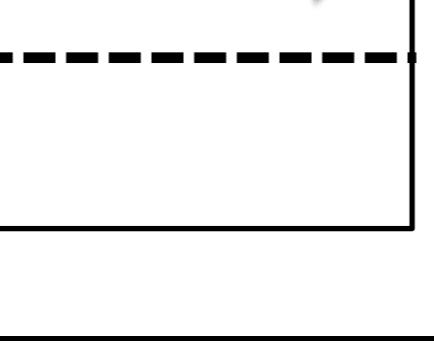
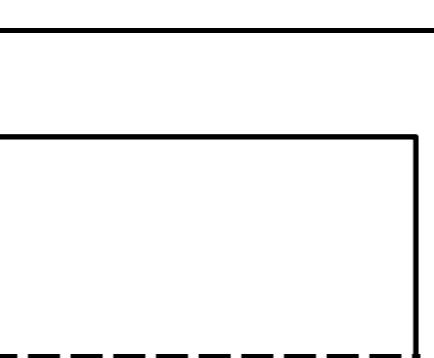
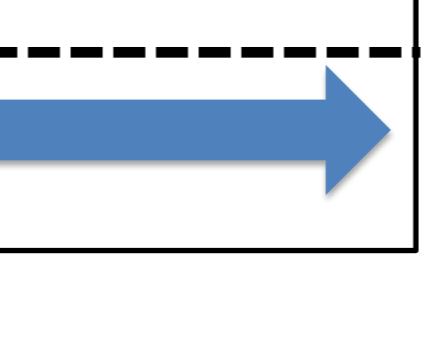
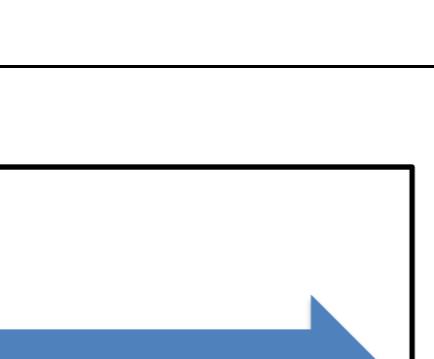
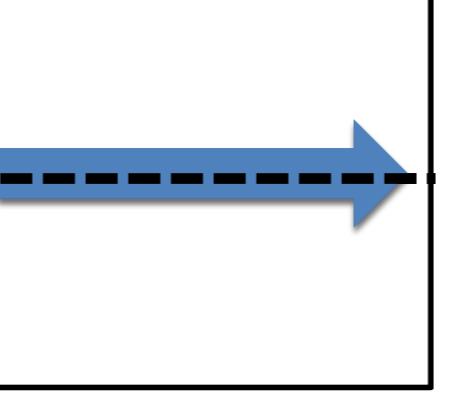
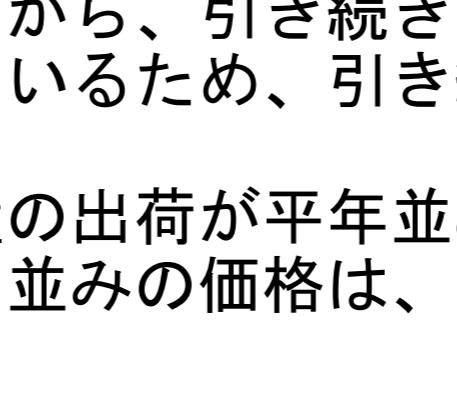
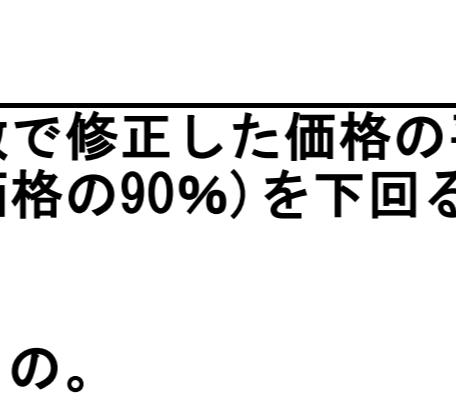
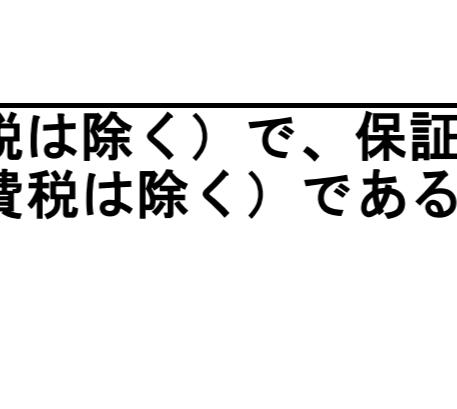


野菜の需給・価格動向レポート(平成29年6月12日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

種類	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	5月の価格情報			6月(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	5月下旬の関東及び近畿ブロックの入荷量( )内は、本年と過去3カ年平均値との比率	主産地	※レポートの読み方については、注意書きを参照してください					
		指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額						「図の見方」					
		上旬	中旬	下旬				平均価格	現時点の価格水準	見通しの価格水準			
葉茎菜類	キャベツ	88.59 67.20	87 (98%)	78 (116%)	77 (115%)	67.20	・9,103t (88%)	千葉(50), 茨城(24)		千葉産は、出荷終盤を迎えており、気温上昇に伴う傷み等が散見されるものの、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産は、好天に恵まれ生育は順調で肥大が進み、前進傾向であることから、引き続き平年より多めの出荷の見込み。			
		91.02 81.66	104 (114%)	80 (98%)	80 (98%)	81.66	・2,699t (100%)	茨城(34), 愛知(18), 長野(13), 群馬(8)		千葉産の出荷が平年並み、茨城産の出荷が平年より多めと見込まれることから、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。			
	たまねぎ	78.12 (116%)	91 (115%)	90 (122%)	95 (122%)	78.12	・7,661t (113%)	佐賀(40), 兵庫(19), 香川(12)		佐賀産は、現在中晚生の収穫期で生育は概ね順調であるものの、作付面積の減少等により、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。兵庫産は、早生が終了し中生の出荷が中心となっており、引き続き平年並みの出荷の見込み。香川産は、適度な降雨により大玉傾向となっていること、中生の出荷に加え、前進傾向となっている晩生の出荷が重なっていることから、引き続き平年より多めの出荷の見込み。			
		78.12 (110%)	86 (113%)	88 (133%)	104 (133%)	78.12	・2,199t (96%)	兵庫(69), 北海道(11), 佐賀(8)		香川産の出荷が平年より多めと見込まれるもの、佐賀産及び兵庫産が平年より少なめまたは平年並みと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。			
	ねぎ (関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ)	277.31 (126%)	350 (136%)	378 (135%)	374 (135%)	277.31	・1,506t (102%)	茨城(66), 千葉(20)		茨城産は、生育が良好で、初夏ねぎが出荷のピークを迎えており、引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、生育は概ね順調で、夏ねぎが本格的な出荷を迎えており、引き続き平年並みの出荷の見込み。			
		334.73 (97%)	324 (92%)	309 (85%)	286 (85%)	334.73	・217t (110%)	徳島(28), 香川(20), 三重(16), 奈良(13)		茨城産及び千葉産の出荷において現在の状況が続くと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き同水準で推移する見込み。			
	はくさい	67.05 (121%)	81 (87%)	58 (87%)	45 (67%)	67.05	・2,369t (115%)	長野(55), 茨城(25)		長野産は、5月中旬の降雨で肥大も良好であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産は、出荷終盤を迎えており、気温高により5月に前進出荷となったことから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。			
		74.06 (143%)	106 (101%)	75 (105%)	78 (105%)	74.06	・875t (102%)	長野(86)		長野産及び千葉産の出荷において現在の状況が続くと見込まれることから、現在平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。			
果菜類	ほうれんそう	376.10 (123%)	461 (103%)	387 (116%)	436 (116%)	376.10	・708t (100%)	群馬(29), 茨城(27), 柏木(15)		群馬産は、6月に入つてから夜温が低いため、生育がやや遅れているものの、引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産は、生育は概ね順調であるものの、5月に前進出荷となつたことから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。柏木産は、4月の干ばつ傾向、低温の影響で生育が遅れていたものの、気温の上昇に伴い、回復しつつあることから、今後は平年並みに回復の見込み。			
		416.73 (127%)	530 (109%)	456 (125%)	520 (125%)	416.73	・311t (82%)	岐阜(79)		群馬産及び柏木産の出荷が平年並みと見込まれるもの、茨城産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、平均並みに近づくものの、引き続き平均をやや上回って推移する見込み。			
	レタス (結球)	156.23 (91%)	142 (73%)	114 (73%)	97 (62%)	120.13	・4,693t (109%)	長野(72)		長野産は、5月からの気温高により、1週間ほど前倒し傾向となつたものの、産地内の出荷地域の移行が順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。			
		165.00 (96%)	158 (74%)	122 (74%)	103 (62%)	125.61	・1,714t (120%)	長野(97)		長野産の出荷において現在の状況が続くと見込まれることから、現在平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。			
	きゅうり	189.84 (119%)	225 (110%)	209 (113%)	214 (113%)	189.84	・6,258t (99%)	埼玉(26), 群馬(19), 福島(15)		埼玉産は、現在促成作が出荷のピークを迎えており、5月の気温高により、前倒し出荷で成り疲れが出ていることから、引き続き少なめの出荷の見込み。群馬産は、出荷終盤を迎えており、気温高により早めの切り上がりの予定であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。福島産は、低温等による影響から、現在平年より少なめの出荷となっているものの、生育は概ね順調であることから、今後は平年よりやや少なめの出荷に出回る見込み。			
		186.08 (123%)	229 (107%)	199 (103%)	192 (103%)	186.08	・2,056t (106%)	宮崎(28), 愛媛(12), 群馬(12), 福島(10), 高知(10)		群馬産は平年並みと見込まれるもの、埼玉産は少なめ、福島産はやや少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。			
	トマト (大玉)	230.55 (105%)	241 (106%)	245 (106%)	245 (106%)	230.55	・6,640t (102%)	栃木(23), 千葉(13), 熊本(13), 茨城(11), 愛知(10)		栃木産は、生育及び着果は概ね順調で肥大も良好であることから、今後も平年並みの出荷の見込み。千葉産は、無加温作が盛期に入り、生育、作柄ともに良好であることから、今後も平年並みの出荷の見込み。熊本産は、やや小玉傾向であるが、生育及び着果は悪くないことから、今後も平年並みの出荷の見込み。茨城産は、春作の出荷がピークを過ぎ、今後は減少していくものの、生育、作柄ともに良好であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。			
		239.96 (104%)	250 (107%)	256 (112%)	268 (112%)	239.96	・2,156t (89%)	熊本(44), 北海道(17), 石川(9)		5つの主産地の出荷がいずれも平年並みと見込まれることから、現在平均をやや上回っている価格は、引き続き同水準で推移する見込み。			
	なす	311.92 (128%)	398 (122%)	379 (116%)	362 (116%)	311.92	・2,356t (102%)	高知(30), 群馬(15), 福岡(15), 栃木(11)		高知産は、天候に恵まれ生育は順調であることから、現在平年より多めの出荷となっているものの、今後は平年並みの出荷となる見込み。群馬産は、夏秋作は概ね順調な生育となっていることから、引き続き多めの出荷の見込み。福岡産は、5月の気温高により、現在平年より多めの出荷となっているものの、出荷終盤をむかえていることから、一時的な出荷増は落ち着き、今後は平年並みの出荷の見込み。栃木産は、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。			
		271.01 (139%)	377 (131%)	356 (128%)	347 (128%)	271.01	・1,026t (98%)	高知(21), 大阪(19), 熊本(16), 福岡(14)		群馬産の出荷が平年より多めと見込まれるもの、高知産、福岡産及び栃木産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き同水準で推移する見込み。			
根菜類	ピーマン	339.20 (121%)	412 (105%)	356 (95%)	321 (95%)	276.65	・1,477t (98%)	茨城(83)		茨城産は、出荷終盤を迎えており、一部ほ場で病害が散見されるものの、引き続き平年並みの出荷の見込み。			
		311.41 (117%)	365 (95%)	296 (95%)	235 (75%)	293.32	・621t (106%)	宮崎(32), 高知(17), 茨城(17), 大分(9)		茨城産の出荷が引き続き平年並みと見込まれることから、6月に入つて平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。			
	だいこん	86.59 (115%)	100 (96%)	83 (96%)	67 (77%)	86.59	・3,289t (86%)	青森(54), 千葉(22)		青森産は、天候に恵まれ生育は順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、出荷終盤を迎えており、生育は順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。			
		89.53 (89%)	80 (82%)	73 (82%)	62 (69%)	89.53	・2,068t (94%)	青森(39), 北海道(37)		青森産及び千葉産の出荷において現在の状況が続くと見込まれることから、現在平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。			
	にんじん	156.99 (85%)	134 (87%)	137 (87%)	126 (80%)	133.01	・3,731t (96%)	千葉(72)		千葉産は、出荷の盛期を迎えており、5月の干ばつ傾向の影響で肥大が遅れていることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。			
		148.36 (81%)	120 (78%)	116 (78%)	99 (67%)	132.62	・1,645t (81%)	長崎(30), 和歌山(27), 徳島(11), 青森(10)		千葉産の出荷において現在の状況が続くと見込まれることから、平均並みに推移する			

## 1 主要野菜の生産出荷状況

種類		5月の価格情報			6月 (参考) 保証基準額 の算定の基 となる平均 価格	5月下旬の関東 及び近畿ブロック の入荷量 ( ) 内は、本 年と過去3カ年 平均値との比率	主産地	生育及び価格の6月下旬までの見通し						
		指定野菜の関東・近畿ブロック 旬別平均販売価額						「図の見方」						
		上旬	中旬	下旬				平均価格	現時点の価格水準	平均価格				
いも類	ばれいしょ	138.39 (121%)	168 (108%)	150 (105%)	145 (105%)	138.39 (117%)	・5,140t	長崎(52), 静岡(14), 茨城(11)			長崎産は、5月連休以降の干ばつ傾向により肥大が遅れていることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。静岡産は、干ばつ傾向により肥大が抑制されているものの、生育は概ね順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産は、天候不順による小玉傾向から出荷が遅れているため、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。			
		144.98 (105%)	152 (100%)	145 (103%)	149 (103%)	144.98 (95%)	・1,854t	長崎(65), 北海道(16), 静岡(8)			静岡産の出荷が平年並み、長崎産及び茨城産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。			

注: 1 平均価格は、過去6カ年(平成20~25年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格。

2 旬別平均販売価額の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。

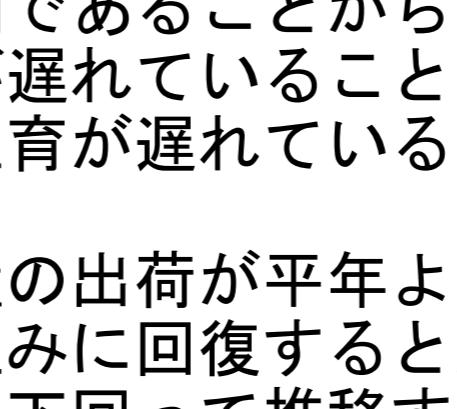
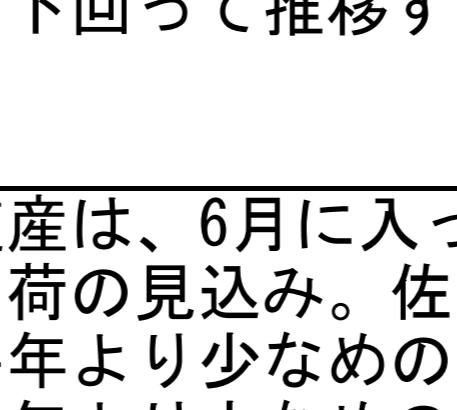
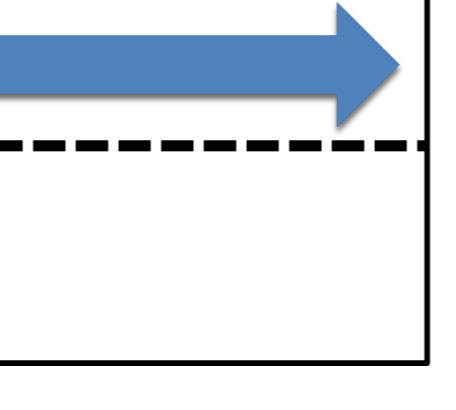
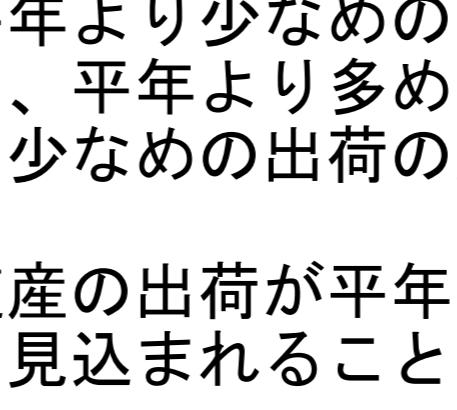
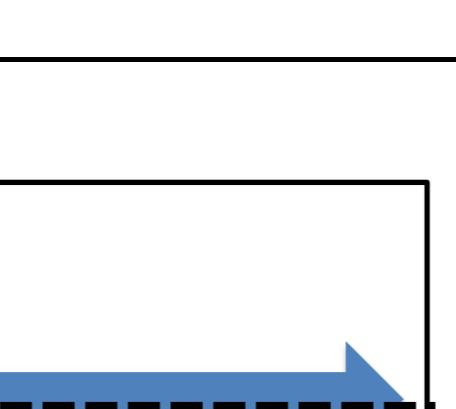
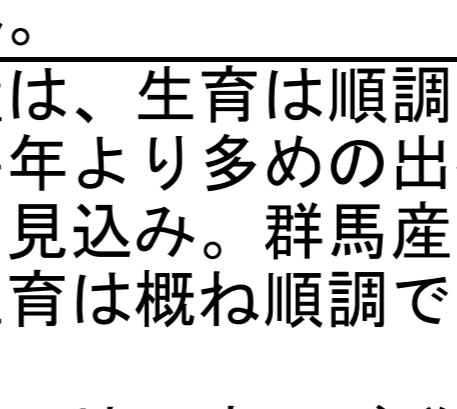
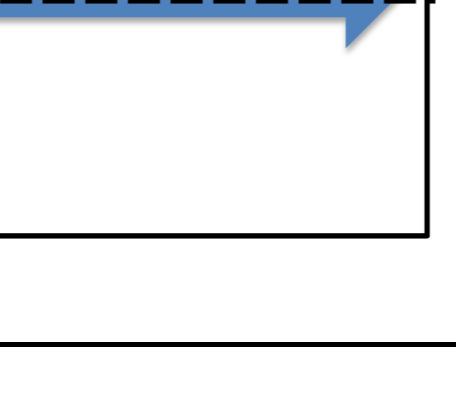
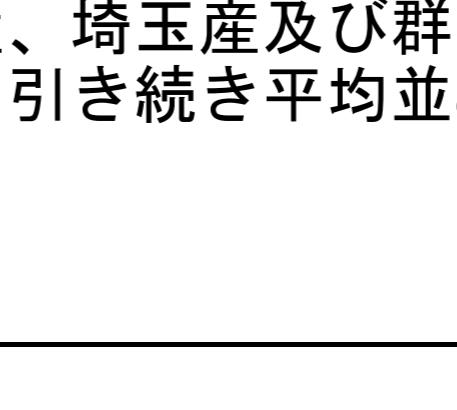
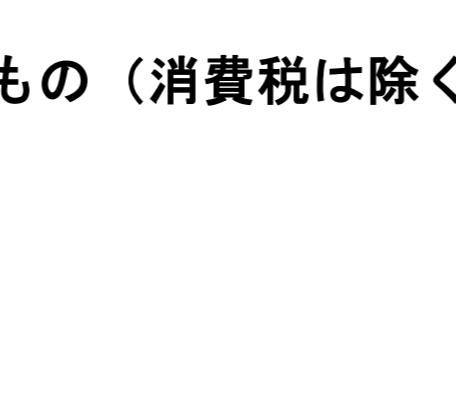
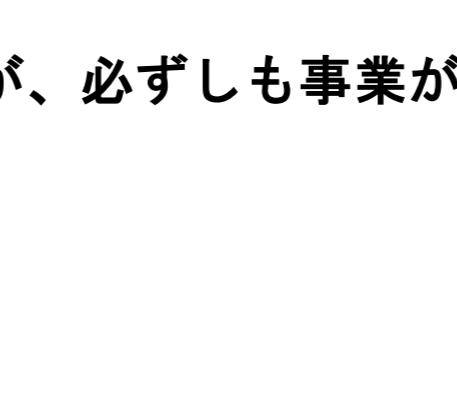
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。

4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。( ) 内は入荷シェアで平成27年実績である。

5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したもの。

6 キャベツの平均価格は、上段が5月1~15日まで、下段は5月16日~31日までの価格である。

## 1 主要野菜の生産出荷状況 (特定野菜)

種類		5月の価格情報			6月 (参考) 過去5カ年 平均価格	5月下旬の東京 都及び大阪市場 の入荷量 ( ) 内は、本 年と過去3カ年 平均値との比率	主産地	生育及び価格の6月下旬までの見通し						
		東京都・大阪市場の旬別価格						「図の見方」						
		上旬	中旬	下旬				平均価格	現時点の価格水準	平均価格				
洋菜類	ブロッコリー	344.20 (114%)	393 (106%)	364 (114%)	394 (104%)	397.28 (104%)	・763t	長野(28), 福島(14), 青森(13), 米国(11), 北海道(7)			長野産は、定植期の霜などにより生育ははあるものの、作付面積の増加もあり、生育は概ね順調であることから、今後も平年並みの出荷の見込み。福島産は、低温、干ばつ傾向により、生育が遅れていることから、引き続き少なめの出荷の見込み。青森産は、多雨と日照不足により、生育が遅れているものの、今後の出荷は平年並みに回復する見込み。			
		363.21 (107%)	390 (101%)	368 (108%)	394 (108%)	398.10 (85%)	・237t	長野(29), 鳥取(21), 香川(14), 徳島(10)			福島産の出荷が平年より少なめと見込まれるもの、長野産の出荷が平年並み、青森産の出荷が平年並みに回復すると見込まれることから、6月に入って平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。			
葉茎菜類	アスパラガス	1180.07 (147%)	1731 (127%)	1498 (115%)	1353 (115%)	1146.51 (91%)	・235t	北海道(23), 佐賀(18), 長崎(11), 栃木(8)			北海道産は、6月に入ってからの気温の上昇に伴い、遅れていた生育が回復し、引き続き平年並みの出荷の見込み。佐賀産は、生育期の豪雨の影響から草勢が弱く細物が多くなっており、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。長崎産は、生育期の日照不足等による生育遅れから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。栃木産は、作付面積の増加に加え、5月の前進出荷の影響により、平年より多めの出荷となっているものの、立茎の時期となっていることから、今後は平年より少なめの出荷の見込み。			
		1331.67 (139%)	1846 (123%)	1633 (116%)	1542 (116%)	1107.97 (89%)	・48t	福岡(26), 佐賀(21), 長崎(15), タイ(14)			北海道産の出荷が平年並みと見込まれるもの、佐賀産、長崎産及び栃木産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。			
葉茎菜類	こまつな	215.24 (96%)	206 (79%)	171 (92%)	197 (92%)	255.29 (94%)	・316t	茨城(39), 埼玉(26), 群馬(14)			茨城産は、生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。埼玉産は、気温高により平年より多めの出荷となっているものの、切り上がりが早まることがから、今後は平年並みの出荷の見込み。群馬産は先週の夜温の低下により、生育が遅れ気味で小ぶりとなっているものの、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。			
		178.27 (113%)	201 (68%)	122 (85%)	152 (85%)	189.07 (101%)	・147t	福岡(85)			茨城産、埼玉産及び群馬産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均並みに上昇した価格は、引き続き平均並みに推移する見込み。			

注: 1 平均価格は、過去5カ年(平成24~28年)の東京都及び大阪市中央卸売市場の価格。

2 旬別価格は、上段は東京都中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場であり、単位は円/kgである。

3 旬別価格の赤字及び青の背景は、平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は平均価格を80%を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。

4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。( ) 内は入荷シェアで平成27年実績である。

## 2 野菜の輸入動向 一 野菜の輸出入数量と主な生鮮野菜の輸出入について 一

○輸入について		野菜の輸入数量					野菜の輸出数量				
		野菜全体の輸入量(平成29年4月)					野菜全体の輸出量(平成29年4月)				
		区分		平成27年 前年比		平成28年 前年比		平成29年4月 前年同月比		平成29年1~4月 前年同月比	
		生鮮野菜	加工野菜	生鮮野菜	加工野菜	生鮮野菜	加工野菜	生鮮野菜	加工野菜	生鮮野菜	加工野菜
		826,845 93	1,752,337 98	862,416 104	1,768,892 101	89,663 118	151,248 103	327,761 118	595,981 108	22,992 240	31,867 139
		2,579,182 97	2,631,308 102	2,409,111 102	2,409,111 102	923,742 108	923,742 111	923,742 111	923,742 111	32,502 186	42,968 132
		1,355,491 96	1,365,785 101	120,030 115	120,030 115	467,866 117	467,866 117	467,866 117	467,866 117	53 50	51 51
		中国産野菜合計	中国産野菜合計	中国産	中国産	中国	中国	中国	中国	中国	中国
		中国産シェア	中国産シェア	53	52	50	50	51	51	51	51
○輸出について		主な生鮮野菜の輸入先(平成29年4月)					主な生鮮野菜の輸出先(平成29年4月)				
		(単位:トン、%)					(単位:トン、%)				
		区分		輸入合計		1位		2位		3位	
		前年比		国名		数量					